

INFORMATION

《 News 》

平成11年度企画展『陶のうつわ - 印旛の古式須恵器』を開催
当センター本部展示室で、10月6日(水)から企画展『陶のうつわ - 印旛の古式須恵器』が始まりました。印旛郡市内最古の須恵器が一堂に集まるのは、初めてということでたくさんの来館者が見学を訪れています。この企画展は、須恵器のことだけではなく、5世紀初頭、日本列島に須恵器が登場する歴史的背景も視野に入れながら、分かりやすく展示紹介されています。1月28日(金)まで開催しますので、ドンドンお楽しみ下さい。

場所 (財)印旛郡市文化財センター本部展示室
日時 平成12年1月28日(金)まで(土・日曜祝日閉館)
入場無料



企画展『陶のうつわ - 印旛の古式須恵器』

《ご案内》

本部展示室の一時閉鎖について

当センター本部展示室は、現在開催している企画展『陶のうつわ - 印旛の古式須恵器』を最終日1月28日(金)まで閉館し、1月31日(月)以降、一時閉鎖することになりました。来年度の初め頃に、展示室をリニューアルする予定です。日頃よりご高配を賜っている皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解のうえ、宜しくお願い申し上げます。

《発掘中の遺跡》

佐倉市
宮本宮後遺跡B地区(奈良・平安時代)
内田端山越遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代)



内田端山越遺跡

四街道市
成山地区遺跡群(縄文・奈良・平安時代)

《室内作業》

こっちもやっています!

本部
佐倉市鍋木町198 3 ☎043(484)0126
生谷松山遺跡(佐倉市、縄文時代中期ほか)
権現堂遺跡(四街道市、弥生時代~中世)
岩富榎戸遺跡(佐倉市、奈良・平安時代)



土器水洗作業



土器復元作業

成田事務所

成田市飯仲字台畑330 1 ☎0476(26)7208
川築館跡(成田市、古墳時代、奈良・平安時代、中世)
榎戸小富遺跡(八街市、旧石器時代ほか)
天神台遺跡(印西市、縄文時代中期ほか)

四街道事務所

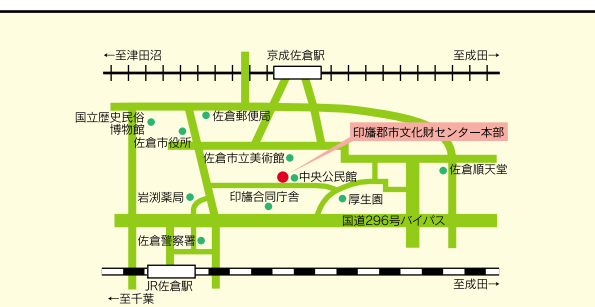
四街道市みそら3 44 1 ☎043(432)0336
南作遺跡(四街道市、縄文時代~奈良・平安時代)
郷野遺跡(四街道市、弥生時代~古墳時代ほか)

弥富事務所

佐倉市岩富町538 1 ☎043(498)2735
宮内井戸作遺跡(佐倉市、縄文時代ほか)

《おしらせ》

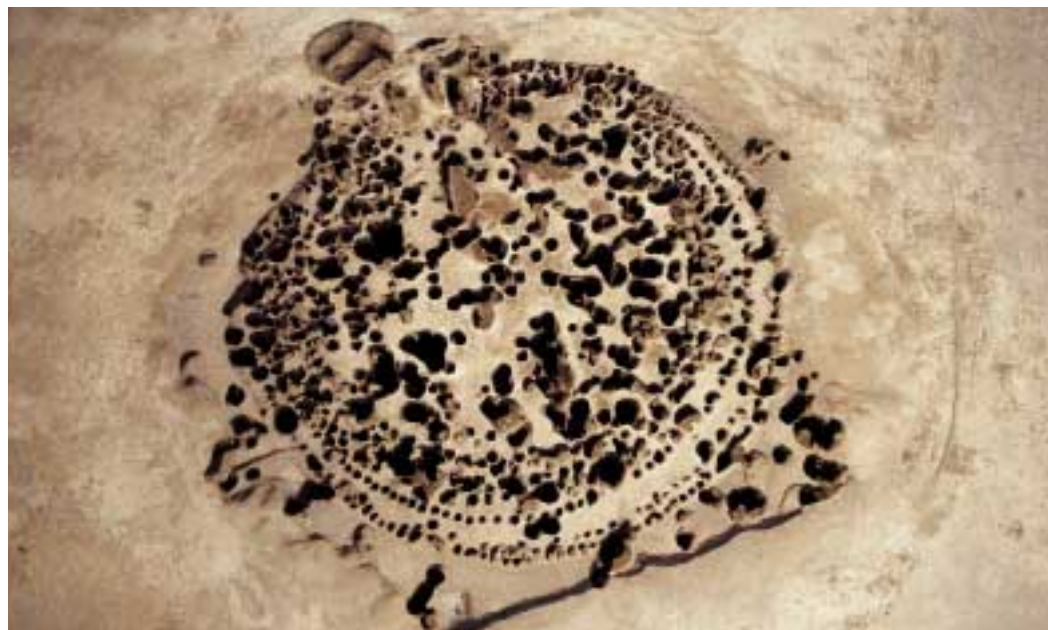
上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡下さい。詳細は、本部へお問い合わせを!
本誌は、年4回の発行の計画です。第4号は来年度4月発行予定です。今号のご意見・ご感想などをお聞かせ下さい。



広報誌 フィールドブック vol.3 発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285 0025 千葉県佐倉市鍋木町198 3 ☎ 043(484)0126(代) ☎ 043(484)9871 平成12年1月15日



佐倉市宮内井戸作遺跡



大型住居 直径約12m

遺跡は縄文時代の後半(今から約2500年前)を中心とする大規模な集落です。上の写真は、昨年調査したこの時期の大型住居で、直径がおよそ12mあります。通常の住居が6m前後ですから、倍の大きさです。主柱の穴は大人がすっぽり隠れてしまうほどの深さです。床には20人くらいは寝そべることができます。

大型住居は、この他にも直径20mほどのものも含めて4軒存在します。しかも、すべて近距離に作られ、建て替えられた跡もあることから、特定の場所が意識され、数十年もの長い間、集落の象徴的な存在であったと考えられます。用途は、儀式や祭礼などをおこなう集会所や共同作業場などが考えられますが、ときには遠方からの客人をもてなす場としても使われたかもしれません。

全国的に見てもこの時期の大型住居はごくわずかです。約10km離れた佐倉市吉見台遺跡では2軒確認されています。いずれも大規模な集落で、土偶や耳飾などが多数出土する点で共通しています。

ごう ど ぼう した 神門房下遺跡C地点



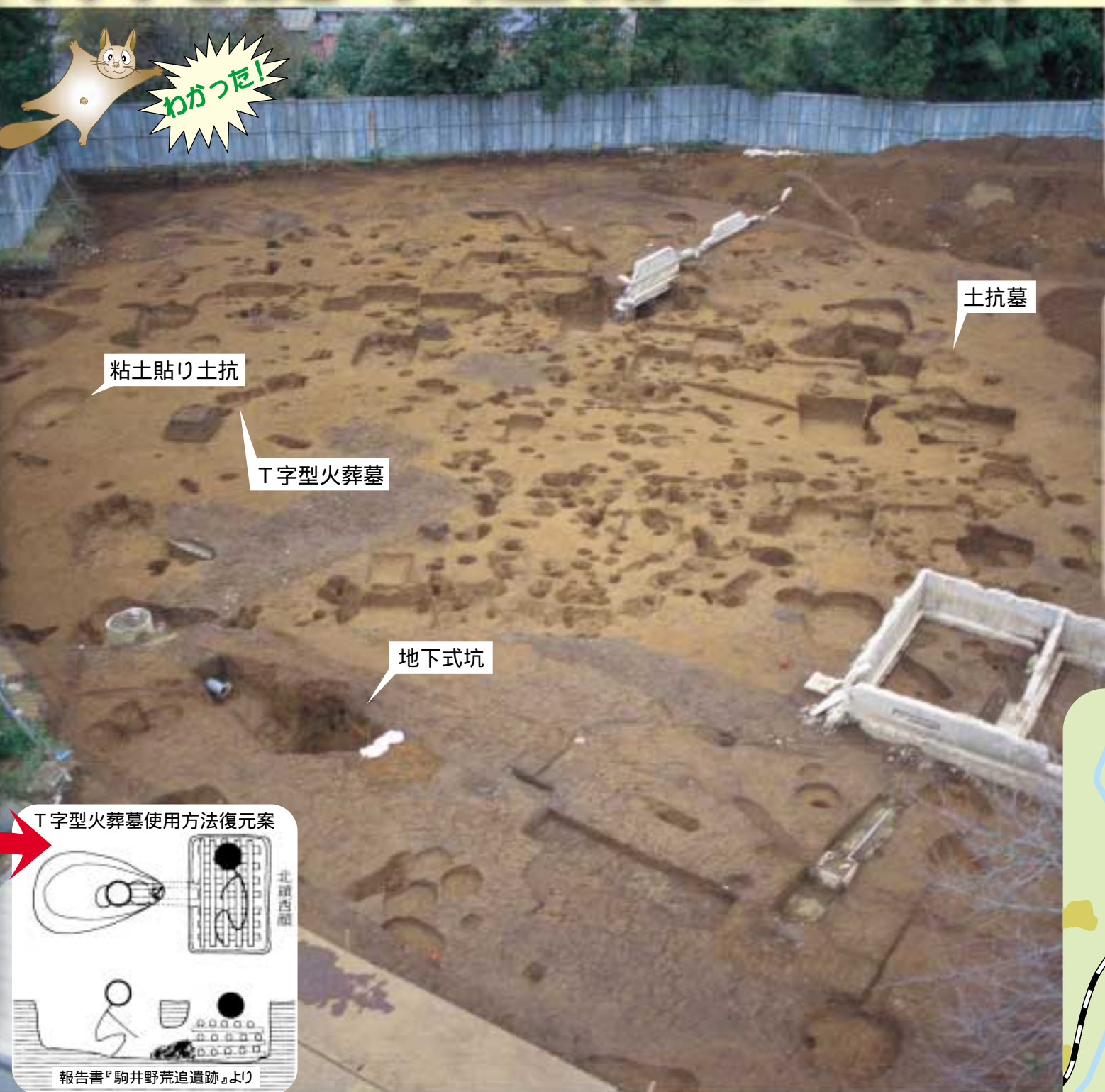
地下式坑



粘土貼り土坑



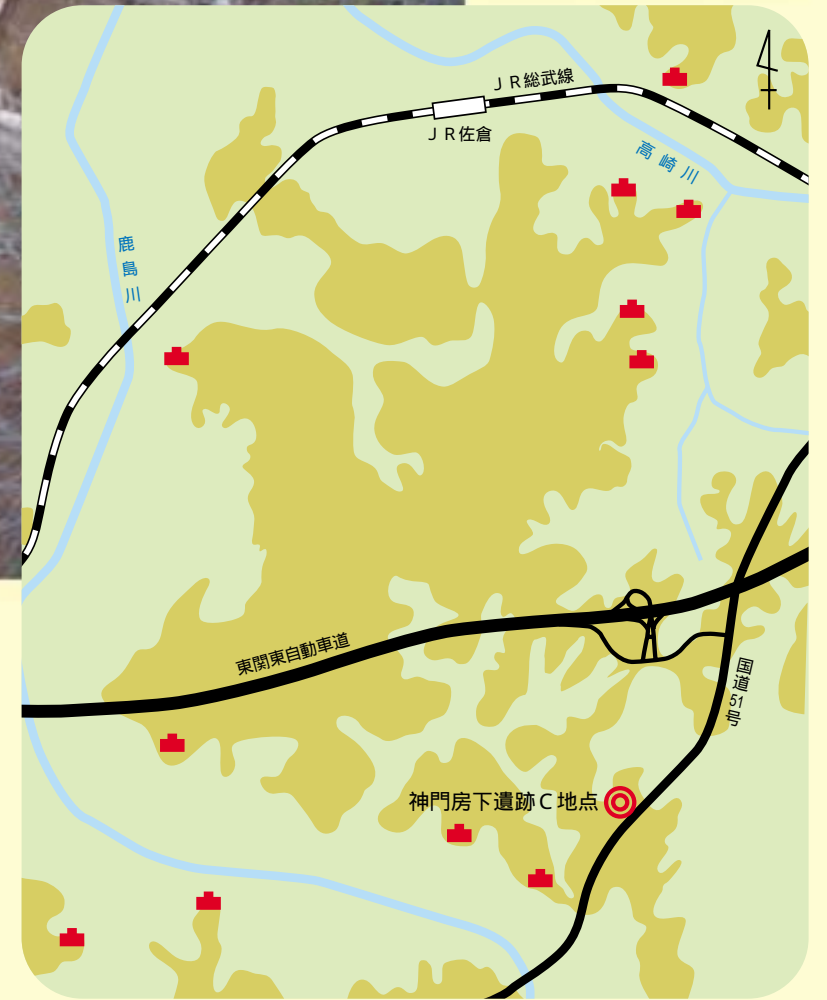
T字型火葬墓



土抗墓 甕出土状況



土抗墓 銭貨出土状況



神門房下遺跡全景

- 城館跡
- ◎ 神門房下遺跡C地点

佐倉市神門房下遺跡C地点と周辺の城館跡

神門房下遺跡は佐倉市の南部、鹿島川と高崎川に挟まれた台地上に位置しています。遺跡内には佐倉市立南部中学校が建てられており、今回のC地点は体育館の建替え工事に伴って発掘調査が行われました。

調査の結果、14世紀末から15世紀の土坑墓や火葬墓・地下式坑（埋葬前に一時遺体を安置した場所）・井戸・水溜めとして使われた粘土貼り土坑・掘立柱建物跡（お堂の跡）等が検出されました。また、火葬墓からは人骨が出土し、土坑墓からは骨壺と思われる甕や、砥石、銭貨などの副葬品も出土しています。当時は三途の川の渡り賃として、銭6枚（六文銭）をお墓

の中に入れる風習があったようです。以上のことから、この場所が中世の大規模な墓地造成地であることがわかりました。また、台地整形区画内からはフイゴの羽口や多量の鉄滓が出土し、製鉄が行われていた可能性も考えられます。

鹿島川や高崎川の流域には、同時期に築城された城跡が多数点在しています。このことから神門房下遺跡の周辺には、城を後方から支える集落が存在し、そこで製鉄が行われていたのかもしれない。